

おほとものやかもら 橘の花を攀ぢて、坂上大嬢  
大伴家持、橘の花を攀ぢて、坂上大嬢  
に贈る歌一首 并せて短歌

一五〇七番

いかといかと ある我がやどに 百枝さし 生ふ  
る橘 玉に貫く 五月を近み あえぬがに  
花咲きにけり 朝に日に 出で見るごとに 息の  
緒に 我が思ふ妹に まそ鏡 清き月夜に た  
だ一目 見するまでには 散りこすな ゆめと言  
ひつつ ここたくも 我が守るものを うれたき  
や 醜ほととぎす 暁の うら悲しきに 追へ  
ど追へど なほし来鳴きて いたづらに 地に散  
らせば すべをなみ 攀ぢて手折りつ 見ませ  
我妹子